

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	心理学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	2	総時間数	45	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	①心理学の基礎的な知識を学ぶ。 ②テキストを通じて学びを深める ③援助者としての基本的な対人コミュニケーションを身に着ける						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	心理学とは何か:基礎心理学と臨床心理学			心理学の学問としての基礎的な知識を得る			
2	自分を知ろう バウムテストとエゴグラム			心理テストの実施と解釈を通じて、自己理解を深める			
3	子供を知ろう 発達の中の二つの段階			子供の発達の理論を通じて、子供の心の理解を深める			
4	青年を知ろう 青年期の課題			青年期の心理的問題を通じて、自己理解を深める			
5	大人を知ろう さまざまな精神疾患と心理①			さまざまな精神疾患の事例を通じて、その理解を深める			
6	大人を知ろう さまざまな精神疾患と心理②			同上			
7	ケアする人の対話スキル①			グループ演習を通じてコミュニケーション能力を高める			
8	ケアする人の対話スキル②			同上			
9	ケアする人の対話スキル③			同上			
10	ケアする人の対話スキル④			同上			
11	ストレス社会とメンタルヘルス①			テキストに基づきテーマを選んで発表を行う			
12	ストレス社会とメンタルヘルス②			同上			
履修上の 留意点	授業時間は講義とグループ発表の準備の時間からなる。授業外で特別課題は課されないが、グループ発表のための資料を各自集めることが求められる。						
授業形態	講義 グループ学習						
教科書	片山和男編著『ストレス社会とメンタルヘルス』						
参考書	堀越勝『ケアする人の対話スキルABCD』						
評価方法	筆記試験 グループ発表						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	教育学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	本授業は、教育や学習に関する学術的な知見をふまえ、学習者に寄り添った指導や援助のあり方を理解するとともに、教育に関わる課題に対して自らの考えを説明できるようになることを目標とする。さらに、本授業では教育者として必要なプレゼンテーションやグループワークの技法の基礎を身につける。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	教育の意義と大人の学び			グループワークを通して自らの経験を振ることで教育の意義を考える。 子どもと大人の学びの違いを説明できる。			
2	ヒトの発達と子ども			教育を考える上での前提となるヒトの特徴を理解し、ヒトの子どもの発達の捉え方の歴史的变化を説明できる。			
3	学校教育の役割			学校の社会的意義や役割に関する学術的な知見を理解し、自らの学校経験を評価・再評価することができる。			
4	社会の変化と教育問題			教育を取り巻く社会がどのように変化しているかを理解したうえで、実際に起こっているさまざまな教育問題を学術的な視点から解釈・批判できる。			
5	教育観の基礎と学習者の多様性			教育観や学習観の学術的な基礎を理解するとともに、多様な学習者のニーズに応じた学習支援のあり方を考えることができる。			
6	協同学習と指導法の基礎			協同学習の意義や指導法に関する基礎的な知見を理解し、それらを活かした指導を設計することができる。			
7	指導案と教材の作成			教育計画に関する理論と方法を理解する。これまでの授業で学習した内容をふまえ、グループに分かれて指導案と教材を作成する。			
8	模擬授業の実施と振り返り			グループごとに模擬授業を実施し、相互にそれぞれの授業の評価をフィードバックする。これまでの学習を振り返り、教育学を学ぶ意義を説明できる。			
履修上の 留意点	授業は基本的には講義形式で行うが、グループワークや個人発表の機会を積極的に取り入れる。テーマに関連した自らの意見や考えを積極的に述べ、他の受講者と協力して取り組む姿勢を期待する。また必要に応じて映画等の映像教材を使用する。各回の授業後には振り返りシートの記入・提出を求める。						
授業形態	講義 グループワーク 個人発表						
教科書	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。						
参考書	適宜紹介する。						
評価方法	筆記試験、授業へ取り組む姿勢、各回の振り返りシートを総合的に評価する。						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	生物学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	理学療法, 作業療法の各種専門科目を履修する為の生物学の基礎的内容を理解する。 生物未履修者と履修者の差をなくし同じレベルになることを目標とする。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	生物とは何か			生物の共通性と多様性			
2	生体構成物質			生物体を構成する物質(主に有機物)の構造や生体内ではたらき			
3	細胞・組織・器官・生殖と発生, 器官形成			細胞の構造, 細胞膜のはたらき, 細胞分裂, 組織の種類と器官, 動物体のなりたち, 生殖細胞のでき方と受精, ウニ・カエルの発生			
4	受容器と効果器			各感覚器官の構造とはたらき, 筋肉の構造と収縮のしくみ			
5	神経系のなりたちとそのはたらき			神経系の基本単位であるニューロンについて, ニューロンでの興奮伝導のしくみ			
6	恒常性			恒常性のしくみと体液, 腎臓・肝臓のはたらき, 自律神経系と内分泌系			
7	代謝			呼吸・発酵の過程			
8	遺伝とメンデルの遺伝法則			メンデルの遺伝法則, 様々な遺伝, 突然変異			
9	遺伝子と最近の遺伝子研究			遺伝子=DNAの証明, 遺伝子の発現のしくみとタンパク質合成, バイオテクノロジー			
履修上の 留意点	生理学, 解剖学などの専門科目の基礎となる内容に関して重点的に講義をするので, 内容をしっかり理解すると同時に定着させること。						
授業形態	パワーポイントによる講義, 教科書内容の説明, 講義プリントを使用。						
教科書	医療・看護系のための生物学(裳華房)						
参考書	高校で使用した生物の図説・資料集を持参するとよい。						
評価方法	学習中の小テスト, 研究課題レポート, 学習後の一般試験						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	物理学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	2	総時間数	45	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	物理学は現代文明を支える工学や技術の基礎である。物理学の諸分野の中でも、力学は身近な物理現象と密接に結びつき、古くから体系を整えて物理学における研究方法の範例となった分野である。本講義では加速度、力、エネルギー等の物理学全体をつらぬく基礎概念を、主として力学を通じて理解し、さらに身体運動の理解に必要なさまざまな物理現象を学ぶ。また、熱、温度、波電磁気などの物理現象や、超音波療法、放射線の利用などの医療関連事項にも簡単にふれる。						
授業計画(テーマ)			授業内容(行動目標)				
1	1. 静力学	数学と物理の簡単な復習。ベクトル、力の合成、分解、力のつり合い等、静力学の基礎と数学的表記法を学ぶ。基礎学力調査テストを実施。					
2	1. 静力学	重力、摩擦力、弾性力等のさまざまな基本的な力およびニュートンの作用・反作用の法則を学ぶ。物体にはたらく力を説明できる。					
3	1. 静力学	力のモーメントと剛体のつりあいを理解し、簡単なつりあいの例題を説明できる。					
4	1. 静力学	平行力を含む2力の合成、重心、てこの原理を学ぶ。てこを利用した器具や、生体の中にみられるてこの原理を説明できる。					
5	1. 静力学	多くの例題や《課題》を解くことにより、静力学の理解を深める。さらに、身体運動と静力学との関連を学ぶ。					
6	2. 動力学	動力学の基本であるニュートンの第一および第二法則を学ぶ。それらの知識を用いて等速円運動、単振動、慣性力が説明できる。					
7	2. 動力学	仕事、仕事率および物理学で最も重要な概念の一つである力学的エネルギー保存の法則を学ぶ。力学全般の基礎を理解し、説明できる。					
8	2. 動力学	力学の総復習を行い、理解を深める。その後、前回までに学んだ力学の中間テストを行う。					
9	3. 流体、熱と温度	流体の基礎である圧力、浮力を学ぶ。次いで、熱と温度、物質の三態、熱の移動形態など、熱の基礎的な事象を概説する。					
10	4. 波と光と音	縦波・横波、波の干渉、回折などの波動現象および様々な分野で利用されている超音波、ドップラー効果を概説する。					
11	5. 電気と磁気、放射線	電流、電圧、抵抗、オームの法則、電気とエネルギー、などの電磁気学の基礎的な事柄および原子核、放射線と単位について概説する。					
履修上の 留意点	授業はプリントを使用して行う。「授業要項」に記された項目を概説するが、内容や順序は適宜、変更することがある。プリントに記されている《課題》をレポート(A4用紙)として提出する。提出方法については講義のなかで指示するが、原則として、《課題》を解くために必要な講義が終了した翌週の、授業開始前に提出することとする。《課題》を遂行するためには予習が欠かせない。事前に配布されたプリントで必ず予習をして授業に臨むこと。《課題》の解答は7回目および10回目の授業終了後に配布する。						
授業形態	講義						
教科書	なし						
参考書	「身体運動の理解につなげる 物理学」 江原義弘 山本澄子 中川昭夫 著 南江堂						
評価方法	レポート、中間テストおよび定期試験を総合採点し、60点以上を合格とする。						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	英語 I				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	医療に携わる者として、基本的、実践的な英語を身につけ、会話とアクティビティで、病院に従事するあらゆる人が直面するシーンでの対応が英語でおこなえるようにする。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	Hospital Departments			病院の各科の名称をつかって、様々な症状のある患者に適切な科を案内する。			
2	Application Forms			受診の申込書の書き方の習得(職業、住所、生年月日 等)			
3	Parts of the Body			体の各部の名称をつかい、症状を説明する。			
4	Illness			医師の診察を受ける時の症状の説明の仕方と病気の名前の習得			
5	Daily Routine			入院患者の日常医務に関して説明する。			
6	Hospital Objects			様々な医療用具の名称と使い方を習得する。			
7	Locations of Hospital Objects			医療用具の収納場所の説明をする。			
8	Hospital Directions and Instructions			病院内の様々な科と場所への行き方を説明する。			
9	Directions(Outside the Hospital)			病院外の様々な場所への行き方を説明する。			
10	Chatting with a Patient			様々な症状を持つ患者とのコミュニケーションを練習する。			
11	Taking a Medical History			患者の病歴の確認の仕方を習得する。			
12	Hospital Procedures			手術前後や検査に関する役にたつ表現を習得する。			
履修上の 留意点	ペアワークやグループワークでの英語を使つてのアクティビティには積極的に参加すること。						
授業形態	ペアワークを中心にした入門医療英会話						
教科書	Vital Signs Revised Edition (Essential English for Healthcare Professionals) 南雲堂						
参考書							
評価方法	期末試験 70% 小テスト 30%						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	保健体育				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	2	総時間数	45	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	様々なスポーツやレクリエーション、トレーニングを通じて、身体を動かすことの楽しさを学び、自分たちで運動を計画・実践していく能力を身に付ける。また、お互いに協力し、コミュニケーションを取りながら安全に運動が行えることを目標とする。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	オリエンテーション・レクリエーション			授業の進め方、注意事項、交流			
2	スポーツを行う前に(講義・実技)			熱中症、ウォームアップ、トレーニング			
3	ドッジボール・ドッジビー			基礎技術の習得、ルールの理解、実践			
4・5	バレーボール			基礎技術の習得、ルールの理解、実践			
6	バドミントン			基礎技術の習得、ルールの理解、実践			
7・8	バスケットボール			基礎技術の習得、ルールの理解、実践			
9・10	タグラグビー			基礎技術の習得、ルールの理解、実践			
11・12	レクリエーションスポーツ			基礎技術の習得、ルールの理解、実践			
履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール、マナーを遵守し、積極的に授業に参加すること</li> <li>・運動に適した服装および靴(室内用、屋外用)で授業を受けること 忘れた場合参加不可</li> <li>・授業の順番や内容は天候、施設の状況により変更する可能性あり</li> </ul>						
授業形態	実技・講義						
教科書	指定なし 随時配布、紹介する						
参考書	指定なし 随時配布、紹介する						
評価方法	参加意欲、態度、技術を基に評価する						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	解剖学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	3	総時間数	90	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	<p>人体の諸機能並びにその異常について学ぶとき、大きな助けとなるのが人体の構造的裏付けである。それ故、ここでは、細胞から組織へ、さらに器官への分化・発達について、さらに具体的な器官系である運動器系、脈管系、神経系、感覚器系(皮膚を含む)および内臓系について、その構成と各器官の機能的構造を習得する。</p>						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	人体のあらし			細胞、組織、器官についてその、機能的構造およびそれらの相互関係について説明できる。各器官とその由来胚葉(外、中、および内胚葉)が列挙できる。			
2	運動器系			全身の骨格、関節、および骨格筋を列挙して、それぞれの構造的特徴と、骨格筋の起始と停止、働き、神経支配について説明できる。			
3	脈管系			全身の動脈と静脈、リンパ管系(リンパ組織を含む)、および心臓について、その機能的構造を説明できる。			
4・5	神経系			中枢神経系、および末梢神経系について自律神経も含めて、その機能的構造を説明できる。合わせて、脈管系との関係で特に、中枢神経系における血管系とその特殊性についても説明できる。			
6・7	感覚器系			一般感覚および特殊感覚を司る各感覚器(皮膚を含む)についてその機能的構造を説明できる。			
8	内臓系			消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、および内分泌系について、その機能的構造を説明できる。			
履修上の 留意点	<p>解剖学は各器官の構造はもちろんであるが、膨大な数の名称を覚えなければならないが、それらを短時間、まして一回見ただけで覚えられる人は少ない。そこで、何回でも、覚えるまで繰り返し、学習する必要がある。また、限られた講義時間で全てを解説することは不可能なので、自学によって補わなければならない。</p>						
授業形態	講義(作成スライドを使用)						
教科書	<p>講義スライドのプリント版 グレイ解剖学 最新版 R. L. Drake ほか(著) 塩田浩平 ほか(訳) エルゼビア・ジャパン</p>						
参考書	<p>解剖学カラーアトラス: J. W. Rohen/横地 千仞/E Lütjen - Drecoll (著) 医学書院 ネッター解剖学アトラス: F. H. Netter (著) 相磯 貞和(訳) 南江堂 Essential解剖学 テキスト&amp;アトラス 中野 隆(監訳) 南江堂 スネル臨床解剖学: R. S. Snell (著) 山内 昭雄(訳)</p>						
評価方法	客観試験(各期末に実施) 必要に応じてレポートを課す						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	生理学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	3	総時間数	45	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	細胞レベルでの生理学の基礎概念を学ぶ。さらに、神経と筋における機能分子による生理的調節について学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	生理学基礎			ホメオスタシスについて説明できる。			
2	細胞機能			細胞環境、構造、物質移動、シグナル伝達について説明できる。			
3	活動電位とイオンチャネル			細胞の興奮、刺激、膜電位、イオンチャネルについて説明できる。			
4	骨格筋			骨格筋の構造、筋収縮機構、興奮収縮連関について説明できる。			
5	神経伝達			神経筋伝達、シナプス伝達、伝達物質について説明できる。			
6	自律神経と運動			自律神経機能と制御分子について説明できる。			
7	感覚1			体性感覚、味覚、嗅覚について説明できる。			
8	感覚2			聴覚、前庭感覚、視覚について説明できる。			
9	脳機能			大脳皮質における高次脳機能について説明できる。			
履修上の 留意点	講義を通じて生理学上の問題点、課題を理解すること。授業内容は教科書で復習すること。						
授業形態	パワーポイントによる講義形式。適宜、授業内容の確認のため小テストを行う。						
教科書	文光堂 生理学テキスト 第8版						
参考書							
評価方法	授業態度と、小テスト及び定期試験の結果を評価する。						



# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	人間発達学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	胎児期から老年期に至るまでの各発達段階について学ぶことで、様々な観点から人間発達の理解を深める。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	人間発達とは・胎児期の発達			人間発達についての基本事項を理解する。胎児期の発達を理解する。			
2	乳幼児期の発達1			乳幼児期の知覚や運動を理解する。			
3	乳幼児期の発達2			乳幼児期の認知や社会性、言語の発達を理解する。			
4	乳幼児期の発達3			幼児期の発達を理解する。			
5	児童期の発達			児童期の発達を理解する。			
6	青年期の発達			青年期の発達を理解する。			
7	成人期の発達			成人期の発達を理解する。			
8	老年期の発達・まとめ			老年期の発達を理解する。これまでの学習のまとめを行う。			
履修上の 留意点	授業で取り上げたテーマから1つ選択し、レポートを提出してもらう。						
授業形態	講義・グループ討議						
教科書	舟島なをみ・望月美知代「看護のための人間発達学 第5版」(医学書院)						
参考書	授業中に適宜紹介する。						
評価方法	期末試験・レポート課題						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	リハビリテーション医学概論				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	1年PT・OT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	リハビリテーション医学は、障害者を対象とし、早期より開始し、予後予測を行いながらチームにて社会復帰を援助し生活再建をすることである。その概要を学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
	<p>リハビリテーション医学は、「障害の医学」であると同時に「生活の医学」であり、国際障害分類も国際生活分類に変更されてきている。この概念を理解することが重要である。</p> <p>リハ医療はチームにてシステムとして行い、医師は障害者の医学的管理を行いながら社会復帰に必要な能力獲得を目指し、そのために、Ns、PT、OT、ST、MSWなどへ指示を行う。チームのメンバーはそれぞれの専門性を生かし、指示に従って目的を達成すべく治療・援助を行う。</p>				各疾病について障害像とともに治療方法の考え方や、左記のシステムや医療制度におけるリハ医療の流れを理解する。		
1	リハビリテーション医学・医療の概要				リハ医学の歴史、障害とは、急性期－回復期－生活期リハ、介護保険		
2	リハビリテーション診療				リハビリテーション診療の流れ、治療手技、障害の心理・受容について		
3	障害の病態生理と評価・治療				廃用症候群、運動障害		
4	障害の病態生理と評価・治療				痙縮・固縮、歩行障害、嚥下障害		
5	障害の病態生理と評価・治療				高次脳機能障害、認知症、フレイル		
6	疾患とリハビリテーション				脳血管障害、頭部外傷		
7	疾患とリハビリテーション				脊髄損傷、神経難病、関節リウマチ		
8	疾患とリハビリテーション				末梢神経障害、切断		
9	疾患とリハビリテーション				内部障害、骨折、骨粗鬆症		
10	疾患とリハビリテーション				整形疾患、二分脊椎、筋ジストロフィー、癌		
履修上の 留意点							
授業形態	講義形式						
教科書	最新リハビリテーション医学(医歯薬出版)						
参考書	現代リハビリテーション医学(金原出版)						
評価方法	筆記試験						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法概論				担当教員	近藤登、伊藤剛、中村敦子、嵯峨守人、川瀬翔太 興登貴子	
学年および学科	1年PT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	1. リハビリテーションについての基礎的な概念を学ぶ 2. 医療における専門職に関する基本的知識を学ぶ 3. 医療人としての基本的行動を学ぶ						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	リハビリテーションとは (近藤)			リハビリテーションの語源と歴史、定義と領域が説明できる。			
2	レポートの書き方 (川瀬)			私製本形式・ビジネス形式という2つのレポートの書き方を覚え、完成させることができる。			
3	リハビリテーション医学と医療の概要 (嵯峨)			リハビリテーション医学と医療の概要を説明できる。			
4	記録・報告 (伊藤)			理学療法記録の位置づけ、記録の内容、具体的な手段について説明できる。基本的な記録・報告を正しく行える。			
5	障害分類 (伊藤)			障害を分類する意義について説明できる。ICIDH、ICFの概要を学び、それらの特徴を理解し、違いについて述べることができる。			
6	理学療法概論 (川瀬)			理学療法の定義・役割・歴史について知る。理学療法の専門性について概要を理解する。			
7	作業療法概論 (興)			作業療法の基本的概念を説明できる。			
8	患者—治療者関係、障害受容 (中村)			患者の心理を理解した上で、理学療法士としてどのような関係を築き、対応をするとよいか、また障害受容について説明できる。			
9	臨床見学①			これまで学んだことを見学したことに結び付け理解を深められる。臨床見学に適切な態度を学び実践できる。			
10	臨床見学②			これまで学んだことを見学したことに結び付け理解を深められる。臨床見学に適切な態度を学び実践できる。			
11	これまでの総括・発表 (担当全教員)			この講義で学んだことを自分たちの考えを踏まえてまとめ発表できる。			
履修上の 留意点	講義ごとに内容や感想をまとめ、各自でレポートを作成し担任に提出する。ノートおよび板書の書き写しのみではなく、講義内容を読み手に報告する文章を目指す。自分の言葉で理解したことを述べるように。						
授業形態	講義および臨床見学						
教科書	特になし						
参考書	特になし						
評価方法	筆記試験および各講義ごとに提出されるレポートでの評価						
担当教員の 実務経験	近藤・伊藤・中村・嵯峨・川瀬：病院で理学療法に従事 興：病院で作業療法に従事						

# 授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業療法概論				担当教員	輿登貴子、水野準也、梅田雄嗣、塩谷絵梨 川瀬翔太	
学年および学科	1年OT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	1. リハビリテーションについての基礎的な概念を学ぶ。 2. 医療における専門職に関する基本的知識を学ぶ。 3. 医療人としての基本的行動を学ぶ。						
	授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)		
1	リハビリテーションとは (水野)				リハビリテーションの起源を含めた歴史を理解することができる。 リハビリテーションの定義について理解し説明することができる。 リハビリテーションの領域を挙げ、内容を説明することができる。		
2	レポートの書き方 (梅田)				レポートの書式を理解し、正しく作成することができる。		
3	記録・報告 (梅田)				基本的な記録・報告について理解し説明することができる。		
4	リハビリテーション医学と医療の概要 (塩谷)				リハビリテーション医学の考え方について理解することができる。 リハビリテーション医療と保健・福祉の連携について理解することができる。		
5	障害分類 (梅田)				障害という概念を説明することができる。 ICIDH、ICFの概念を理解し、その違いについて説明することができる。		
6	理学療法概論 (川瀬)				理学療法の定義・役割・歴史について知る。理学療法の専門性について概要を理解する。		
7	作業療法概論 (輿)				作業療法の基本的概念を説明できる。		
8	患者－治療者関係、障害受容 (輿)				患者-治療者の関係について基本的事項を説明することができる。 障害受容についての概略を説明することができる。		
9	臨床見学				これまでの学びをもとに目標をもち見学することができる。 臨床現場で適切な態度で見学することができる。		
10	総括 (担当全教員)				臨床見学と講義で学んだことを関係付けて、自分たちの考えを報告することができる。		
履修上の 留意点	各講義、見学をレポートで報告する。 理解したことを自分の言葉で、読み手にわかりやすく報告する。						
授業形態	講義、見学、グループ討議						
教科書	特になし						
参考書	適宜紹介						
評価方法	レポート課題:10点 期末試験(筆記試験);輿36点、水野9点、梅田18点、川瀬18点、塩谷9点						
担当教員の 実務経験	輿・水野・梅田・塩谷:病院で作業療法に従事 川瀬:病院で理学療法に従事						